

Press Release:2011.9.14

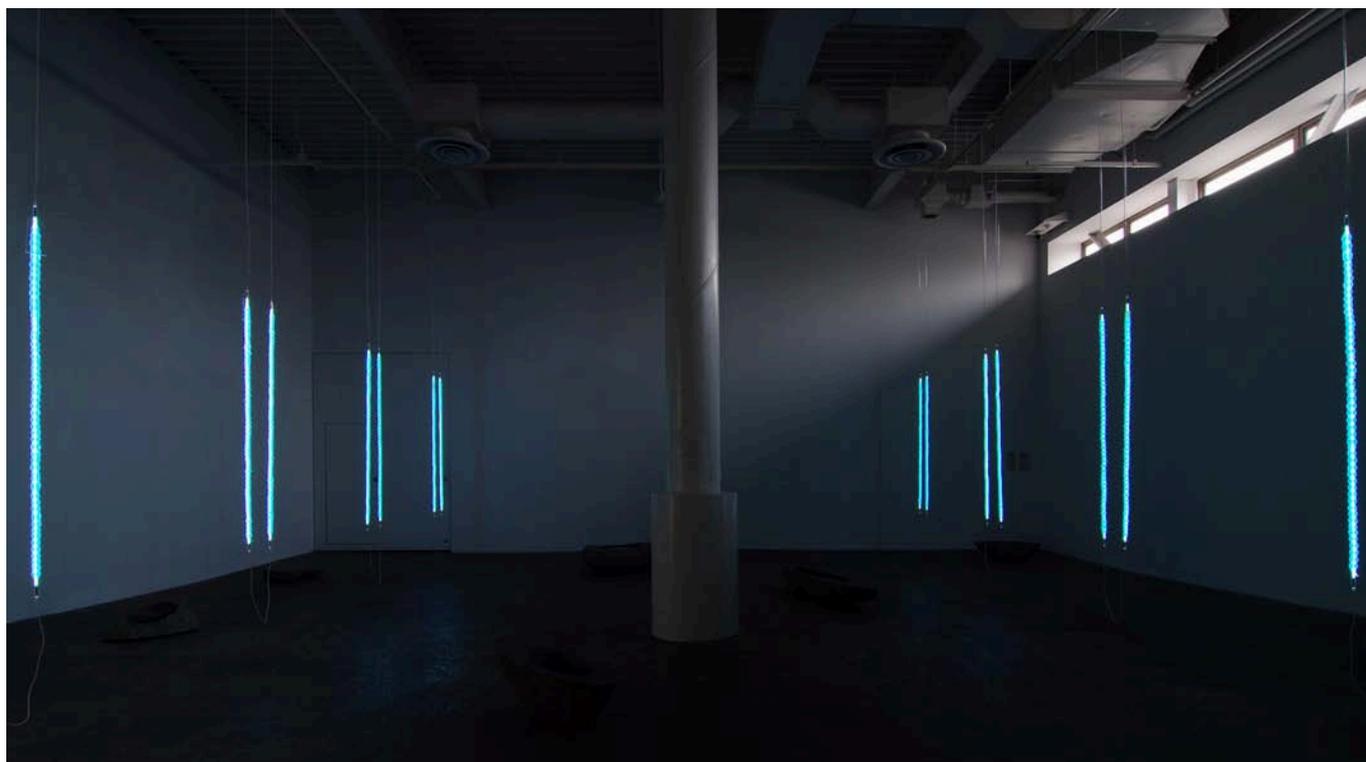
PARC_ Creator Support Project #02

Mars — Takashi Kunitani Exhibition

国谷 隆志 展

2011年10月18日(火) — 11月6日(日) 11:00~19:00 ※月曜休廊

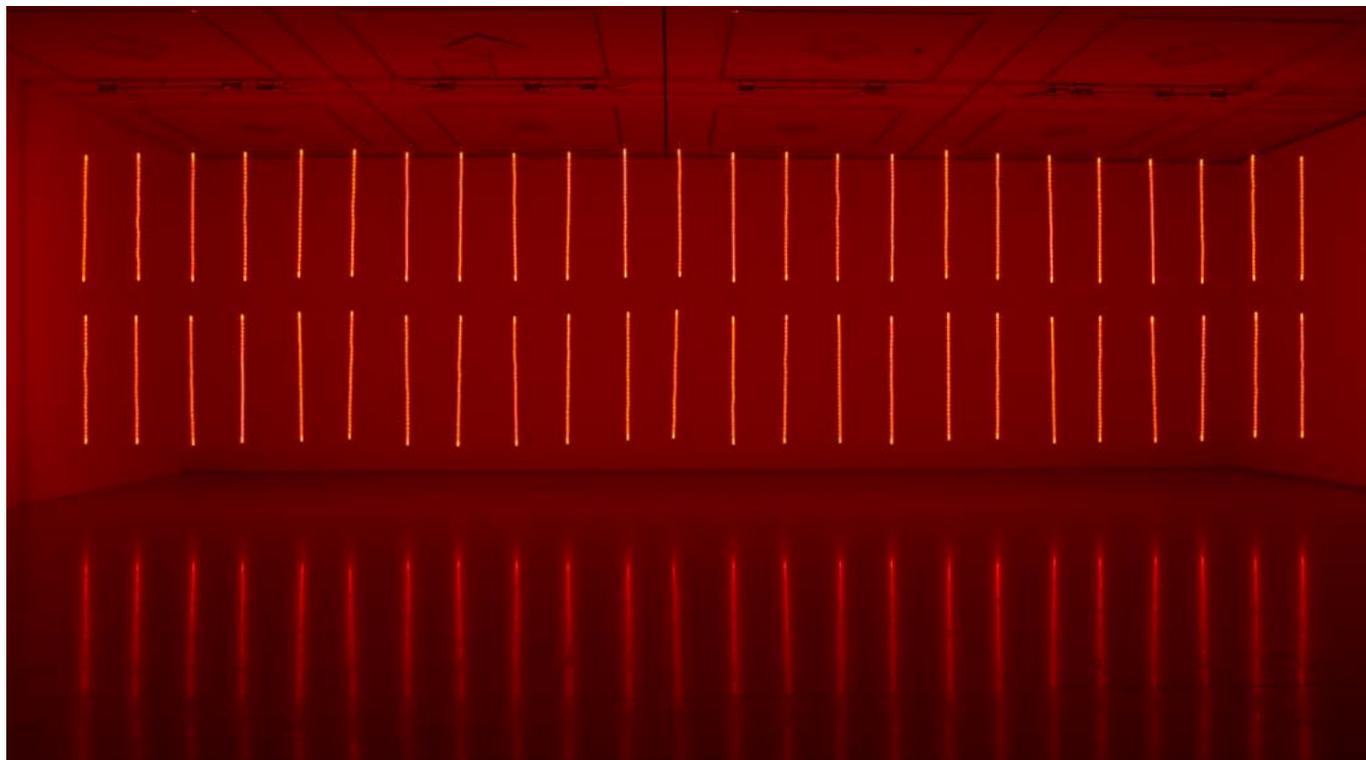
主催:ギャラリー・パルク



【1】 Spaceless Space 2010 2010. ガラス、アルゴン、水銀、サイズ可変

@海岸通ギャラリーCASO (大阪)

2011 ©Takashi Kunitani All Rights Reserved. All Content is Protected by Copyright Laws.



【2】 Spaceless Spaces 2007. ガラス、ネオン、サイズ可変

@大阪府立現代美術センター (大阪)

2011 ©Takashi Kunitani All Rights Reserved. All Content is Protected by Copyright Laws.

Press Release:2011.9.14

ご案内

Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]では、現在活躍する・またこれから注目を集める様々なクリエイターを取り上げ、発表の機会を提供することで、その活動をサポートする「PARC_Creator Support Project」に取り組んでいます。

昨年のヤマガミユキヒロによる#01「Sampling Your Memory」展に引き続き、#02となる今回は国谷隆志をご紹介します。京都を拠点に活動を続ける国谷隆志(くにたに・たかし/京都・1974〜)は、これまでおもにオブジェや彫刻を核に、設置空間を巧みに取り込み、空間そのものを変容させるインスタレーションによる発表を続け、その幅広い作品展開は多くの注目を集めています。

とりわけネオンを用いた一連の作品は、作品と鑑賞者の間となる空間に「ある環境や状態」を創出することで、空間そのものの特質を変容させるとともに、内包される鑑賞者の身体感覚により強く働きかける試みとして、興味深い展開を見せています。

私たちが毎日のように目にするネオン(サイン)。しかし、多くの人にとってネオン(管)そのものを間近で見るとはあまり無く、その鮮やかで鮮烈な光の正体(真実)を知らないままに、ただ「それら」を一律にネオンとして認識し続けているのではないのでしょうか？

国谷によって息を吹き込まれ制作されたネオンは、その呼吸の痕跡として表面に有機的な起伏を持ち、ひとつとして同じ形状のものはありません。また、設置空間の特性を見極めて配置された無数のネオンは、空間そのものを大きく変容させながらも、相互の光や外光の干渉、鑑賞者の視点によって、常にその様相を変化させます。

その有機的なうつろいを見せる空間の中で、鑑賞者はネオンを見つめ、それぞれを目で追い、全体の揺らぎを眺めて過ごす「体験」を通じて、空間との間に様々な関係を持つ事になるでしょう。

「Mars」(=火星)と題された本展は、火星の存在について言及するものでもなく、また火星を「再現」するものではありません。ただ、私たちは変容する空間を眺め、個々の作品を見つめ、時に自身の感覚に問いかけながら「Mars」と名付けられた作品空間を「体験」することで、「なぜMarsなのか?」「なにがMarsなのか?」「Marsとはなにか?」といった疑問から、いつしか空間との間に多様な対話を重ねているのではないのでしょうか。

本展はギャラリー・パルクの空間にあわせて、新たに構築された30本以上ものネオンによる《Spaceless Space 2011》をはじめ、あわせて制作された《Untitled (Yellow)》、ガラスによるオブジェクト《Breath History》などの作品により構成いたします。

また、《Spaceless Space 2011》は会期中にその構成・配置を変える展示を予定しております。

刻々とその印象が変化する作品・空間・時間をお楽しみください。

本展の周知にご協力くださいますよう、よろしくお願いたします。

※本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。

リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上、Gallery PARC【galleryparc@grandmarble.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

【開催情報】

展覧会名 PARC_Creator Support Project #02

Mars — Takashi Kunitani Exhibition:国谷隆志 展

出品作家 国谷隆志(くにたに・たかし) 【作家HP】http://takashikunitani.com/ *これまでの作品の多くをご覧いただけます。

会 期 2011年10月18日(火) — 11月6日(日) 11:00~19:00 ※月曜休廊

会 場 Gallery PARC(グランマーブル ギャラリー・パルク)

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル[ル・グランマーブル カフェ クラッセ]店舗内2階

【Tel&Fax】075-231-0706 【Mail】 galleryparc@grandmarble.com 【HP】http://www.grandmarble.com/parc/

料 金 無料

主 催 グランマーブル ギャラリー・パルク

アクセス 阪急河原町駅・三条京阪駅より徒歩10分、地下鉄東西線京都市役所前駅より徒歩3分

***** 開催期間中につき、パルク1階カフェ[ル・グランマーブル カフェ クラッセ]に本展DMをご提示の場合、ご飲食に限り10%OFFいたします。

お問い合わせ Gallery PARC [グランマーブル ギャラリー・パルク] (正木・永尾)

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル [ル・グランマーブル カフェ クラッセ] 2F

【Tel&Fax】075-231-0706 【Mail】 galleryparc@grandmarble.com

Press Release:2011.9.14

【ステイトメント:国谷隆志】

空間と私の距離。

人間と空間は、深く複雑に絡み合った関係である。空間というものの存在を考えると、身体を抜きにすることは難しいだろう。

それは、私たち人間の身体が常に空間の中に置かれているのと同時に空間を自らのものとすることによって環境を捉えているためだ。作品が身体感覚に働きかけるとき私たちは思考によってそれを把握し、統合する。

作品は単なる物質として捉えられるのみではなく、場として身体の一部となる。それは論理や認識のレベルではなく、内面的な領域へと思考を拡大していくことである。

私は、私の作品が観客の意識の中で新たな意味や世界観を創り出す装置のような機能をはたすことができればよいと考えている。

観客が作品によって示される空間に立ったとき、身体を通じて観客自身の意識の中に起こる出来事は主体的であるために客観性に欠け、あまりに不確かなものかもしれない。

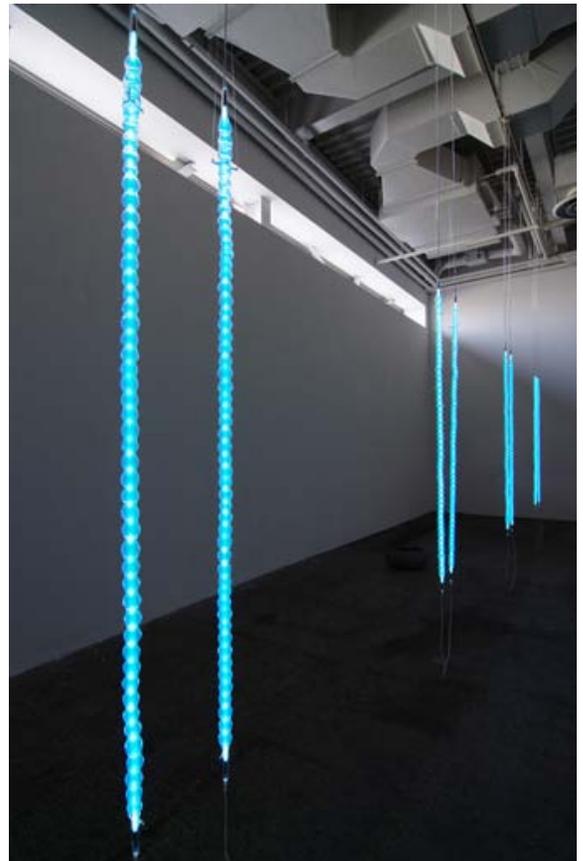
しかし、このような場の感覚によって、「身体が、今、ここにある」ということを強く自覚する事ができると私は考えている。

私は、人間の空間への関わりにおいて、自分を取り巻く世界、物事についてのあり方を問うこと、さらに人はそれらとどのように向き合うのか、といったことに関心がある。

人が占めている位置、身体、空間、時間、物の配置による人の視点や移動。

これらは身体を起点とした観客自身の位置であり、場の感覚によって示されるものは、自らの存在を示すことに繋がる。作品の意味は観客の体験によって成立し、観客の参加そのものによって完成する。

あなたの存在と私の存在によって作品を完成へと導くことを、あなたの存在と私の存在の証明とする。



【3】 Spaceless Space 2010 2010. ガラス、アルゴン、水銀、サイズ可変 @海岸通ギャラリーCASO (大阪)

2011 ©Takashi Kunitani All Rights Reserved. All Content is Protected by Copyright Laws.

【本展について】

展覧会タイトルの「Mars」に関して「なぜMarsなのか？」という疑問を抱かれるかもしれません。

そして、本展覧会は火星の存在について言及するものではありません。

私たちは科学技術の進歩により、遥か遠くの火星の大気構成要素や大地の成分、地表の様子やその変遷など、火星についてのある程度の「知識」を得て、その存在を知ることができるようになってきました。

しかし、本当の意味で火星を「知る」には、火星という状況・状態と接触し、それを体験する必要があるのではないのでしょうか。

そして、私たちの知識の中にある火星は、自らの手で触れる事、ましてやその上に立つ事などできるはずもない、つまり火星はまるで未知の存在のままではないのでしょうか。

本展覧会はギャラリーをサイトスペシフィックな空間として、ある状況や状態を設定し、鑑賞者と作品・空間との間に様々な関係性が生まれることを促す試みです。

自らを包み込む空間を経験することで、鑑賞者の意識は作品・空間・身体との関係についてなど、様々なものに向けられるのではないのでしょうか。

そして、「なぜMarsなのか？」といった疑問は、「Marsとは何なのか？」という疑問に変わっていくでしょう。



【4】 Spaceless Spaces 2007. ガラス、ネオン、サイズ可変 @大阪府立現代美術センター (大阪)

2011 ©Takashi Kunitani All Rights Reserved. All Content is Protected by Copyright Laws.

Press Release:2011.9.14

【おもな展示作品について】

Spaceless Space



夜の町を演出し、華やかに彩るネオンサイン。

どこにでもあるこのサインは、ガラスというメディウムからできている。

ネオンサインに使われるガラス管には、透明な皮膜の隔たりによって内部と外部という空間性をみることができる。

火で溶解されたガラスに息を吹き込んでいく事で形成される、有機的なリズムをもつこのかたちは、私たちが無意識に行っている身体的な行為、「呼吸」の彫刻としての姿である。

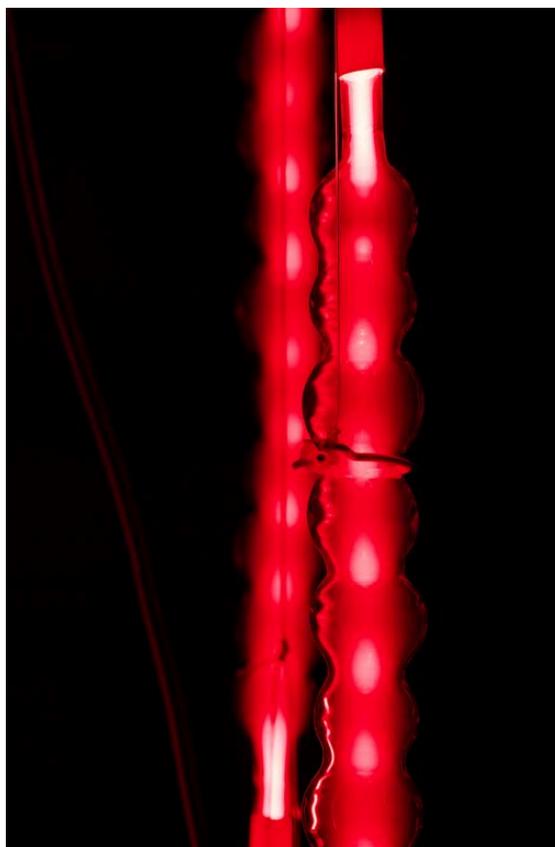
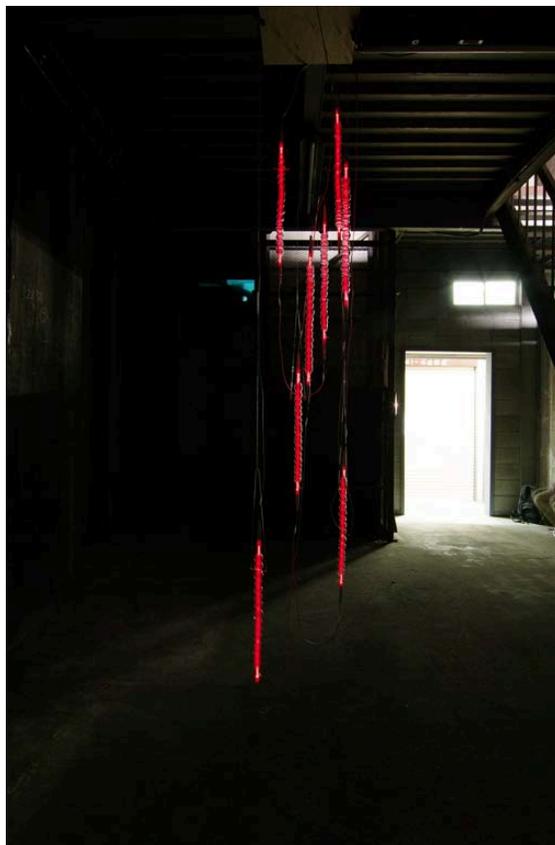
これらのガラス管を空間に配置する事で、それを取り囲む空間全体を一つの環境として作りだす。

いわば息を吹き込んで空間そのものを作りだす。

これらが観客と関係を持つことで、観客は自らの身体性や空間の中に配置されたガラス管と自らの位置関係、自らを包み込む有機的な光の中の内部や外部といった空間を同時に経験する。

そこには観る人間の意識が宿り、観る人間によって完成される空間が存在しているのではないだろうか。

Spaceless Spaceは空間内に配置されることで1つの場が空間に対して入れ子構造になる。



【5】 Spaceless Spaces – autumn line

2004. ガラス、ネオン、ネオントランス、サイズ可変。

【6】 Spaceless Spaces (Sculptural Breath)

2011. ガラス、ネオン、サイズ可変
@神戸元町高架下通商店街(神戸)

Press Release:2011.9.14

Air Conditioner

空間に対して何らかの働きかけをしようと考えたとき、鳥の羽根を回転させるだけで空間の空気が調整され、新たな空間として空間を活気づけることは可能なのではないかと考えた。

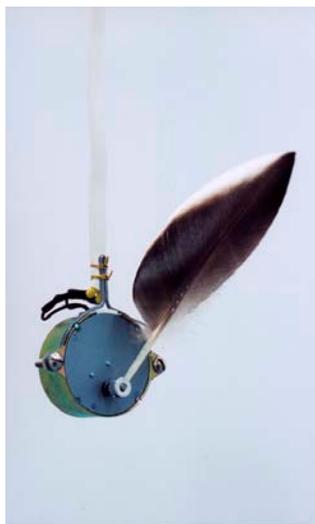
Breath History

一日の一呼吸をガラスの痕跡として残した物。

世界にとって重要な出来事があった日の場合もあれば、歴史として残らない個人的な何気ない一日のものもある。

これらはある一日のドキュメントとして制作され、継続して続けている。

本展では2011年8月の1ヶ月に毎日制作された作品を展示。



【7】 Air Conditioner

2004. モーター、羽、空気、サイズ可変



【8】 Breath History

2004. ガラス

【国谷隆志:略歴】

<http://takashikunitani.com/>

1974 京都府生まれ

1997 成安造形大学 立体造形クラス卒業

個展

2008 Untitled Series (Contemporary And Spirits CAS/大阪)

2007 The Vertical Horizon (大阪府立現代美術センター/大阪)

2005 国谷隆志展 (Contemporary And Spirits CAS/大阪)

2005 "a piece of work : KUNITANI Takashi Exhibition" (APS /東京)

2004 "Between Ground And Sky" (YAEMON /京都)

2004 "What you have known for some time" (ギャラリーココ/京都)

2003 "YOUR PRIVATE SURROUNDINGS" (YAEMON /京都)

2003 "クリテリオム54" (水戸芸術館/茨城)

2003 "Sparkle" (ギャラリーココ/京都)

2002 "Nothing Like Object" (ギャラリーそわか/京都)

2002 "Complete your space" (ギャラリーSEN/大阪)

2001 "Complete your space" (ギャラリーココ/京都)

グループ展

2011 モトコーART train (神戸元町高架下通商店街/神戸)

2010 NEW WORKS「接続熱源」(ギャラリーほそかわ/大阪)

2009 MASSIVE PROGRESSION (ギャラリーアーティストロング/京都)

2008 LOCUS (神戸アートビレッジセンター/神戸)

2008 Art Court Frontier 2008 #6 (アートコートギャラリー/大阪)

2008 第11回 岡本太郎現代芸術賞 (岡本太郎美術館/川崎市)

2007 Curator's Eye 2007 (ギャラリーマロニエ/京都)

2006 Look-in vol. 1 (CUBIC GALLERY/大阪)

2005 OMOTE-NASHI (YAEMON/京都)

2005 City_net Asia 2005 (ソウル市美術館/韓国)

2004 Premonition -S- (ギャラリーそわか/京都)

2003 TAMA VIVANT 2003 (多摩美術大学/東京)

2003 NEW GENERATION 3 (海岸道ギャラリーCASO/大阪)

2002 NEW TOWN ART TOWN (山陽団地/岡山)

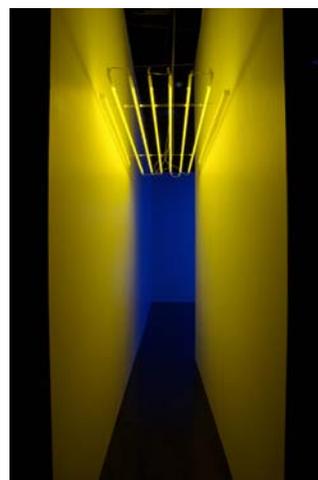
2001 京都府美術工芸新鋭選抜展 ~2001新しい波~ (京都文化博物館/京都)

コレクション:竹中工務店東京本店



【9】 Sign #1-7

2007. ネオンチューブ、鉄、サイズ可変
@大阪府立現代美術センター (大阪)



【10】 Yellow Light and Blue Signs

2008. ガラス、ネオン、サイズ可変
@神戸アートビレッジセンター (神戸)



【11】 Sand Sculpture

2007. 砂、ガラス、ステンレス、サイズ可変。
@大阪府立現代美術センター (大阪)



【12】 Objective Code

2009. ネオンチューブ、変圧器、サイズ可変
@ギャラリーアーティストロング (京都)